

令和 3 年度共通テストレビュー (物理)

文責：木村

2021 年 1 月 18 日

センター試験との差異

形式の変更

センター試験では必答問題 4 問に加え、選択問題 2 問から 1 問選ぶ形式であったが、共通テストでは選択問題がなくなり必答問題 4 問のみとなった。ただし、力学・熱力学・波動・電磁気学・原子の全分野が問われている点に変更はない。

問題の難化

センター試験では教科書や市販の問題集の基本問題の類題が問われていたが、共通テストでは応用問題が多く出題されている。具体的には、定性的な考察からグラフを選ばせる問題 (大問 2 問 6)、多くの受験生にとって未知の内容であるが基本的な内容からの類推により解答できる問題 (大問 3 問 5・6)、会話形式の問題 (大問 4 問 4) が目新しい。多くの受験生にとっては難しく感じられたと思われる。問題数は多くないため、数学 1A 等と比べて時間内に解答することは容易である。

共通テスト対策

応用問題を解く能力が必要となってくる。そのため、教科書や市販の問題集の基本問題がまんべんなく解けることを前提として、私立大学や国公立大学の過去問を解くことが対策に直結すると思われる。特に物理においては、応用問題で何が問われているかを見抜いて基本問題に帰着させることが正解につながる。私立大学や国公立大学の問題を解く際に、ただ解いて答え合わせをして終わりにするのではなく、解けなかった問題に対してどのようなアプローチをすれば解けたのかを丁寧に確認し、思考を整理することで応用問題を解く能力が効率的に向上するであろう。